The Zirni Manuscript

A Persian-Mongolian Glossary and Grammar

by Shinobu Iwamura with the collaboration of Natsuki Osada and the late Tadashi Yamasaki with Preliminary Remarks on the Zirni Manuscript by Nicholas Poppe
1961, Kyoto, Japan

モンゴルは 13 世紀にユーラシアの大部分を支配し、それとともにモンゴル人はその広大な地域に広がった。しかし、そういったモンゴル人は、人口の上でごく少数であったため、多くは現地の人々に同化してしまったと考えられるが、現在のアフガニスタンには自らの言語を保ち引き継いできた人々がいた。その人たちはモゴール人と呼ばれる。「モゴール」とは「モンゴル」と同源の語である。

アフガニスタンにモゴール人がいるということは古くから知られていた。19 世紀においてはインド駐留の英国の中尉リーチ［R. Leech］やハンガリーの東洋学者バーンベーリ［Á. Vámbéry］の記述がある。そして、20 世紀初頭にはフィンランドのラムステッド［G. J. Ramstedt］がアフガニスタンとの国境に近いソ連の町でモゴール人を発見し、その言語を記述した（1903 年）。その後もハンガリーのリゲティ［L. Ligeti］（1937 年）、岩村忍とシュルマン［H.F. Schurmann］（1954 年）、京都大学のカラコルムヒンズークシ学術探検隊（1955 年）、服部四郎（1961 年）、ボン大学の調査隊（1969-72 年）による調査が行われた。このうちリゲティ、京都大学、ボン大学の調査では同時に文書も発見された。

ジルニー文書（The Zirni Manuscript）は上記の京都大学の学術探検隊が 1955 年にもたらしたものである。そのときの様子は梅棹忠夫の『モゴール族探検記』に生き生きと描かれている。その探検隊に言語学者として加わったのは天理大学のモンゴル語学者、山崎忠であった。発見されたジルニー文書のモンゴル語の研究は山崎が行っていたが、探検終了後も現地に残っていた山崎が 1956 年にテヘランで急逝したため、その仕事は長田夏樹に引き継がれた。

本書 “The Zirni Manuscript” は Results of the Kyoto University Expeditions to the Karakoram and the Hindukush, 1955 の Volume VI として京都大学の Committee for the Kyoto University Scientific Expeditions to the Karakoram and the Hindukush によって刊行されたものであり、内容は以下のような構成となっている。

Frontispiece（モゴール族の人々の写真［岩村忍］）

Preface［岩村忍］

Preliminary Remarks on the Zirni Manuscript［ニコラス・ポッペ］

Introduction
Transcription and Translation
Glossary
Appendix
Index
Map
Facsimile

『長田夏樹論述集（下）』の巻末にある「長田夏樹略年譜」によれば、長田は「序文・グロッサリー・索引を担当」とあるから、上記の Introduction、Glossary、Index がそれに相当する。

Introduction では、主に字写（transliteration）と音写（transcription）についてと、モゴール語の音韻・語彙・文法が記述されている。Glossary の部分には、モゴール語の諸資料、漢字・パスパ字文献、アラビア字文献、現代諸方言、そして満洲文語の合計 22 の文献や方言から同源の語が示されている。もちろん当該の語が現れない文献等もあるので各語に 22 の形が示されているわけではないが、たとえば、最初に挙げられている ab（取る）には 13 の資料に現れる対応の形が併記されている。これは、ジルニー文書に出現するモンゴル語語彙に限られてはいるが、いわば同源語の辞書で、その意味では 1 文書の研究の枠を超えたものとなっており、Introduction における記述とともに比較研究の視点が強く見られると言ってよい。なお、この Glossary では別の録音資料などを参考におこなった音写形が見出しとなっているが、同時に字写形も並べられていると、より便利であっただろう。ただ、各語が原文ならびに Transcription and Translation の章のどこに現れるかが示されており、また、その Transcription and Translation の章には音写形だけでなく字写形も含まれているので、原文やその字写形に到達することは容易にできる。Index は字写形からの索引である。

ジルニー文書は、本書始めの Preliminary Remarks でポッペ［N. Poppe］が述べているように、モンゴル語学にとって非常に重要な文献のひとつである。それが発見されたこと、そしてこのような形で研究とファクシミリが公にされたことは学界に対する大きな貢献であった。

参考文献

Homam, Sultan Shah (1972) A Brief Criticism on the So-called “Zirni Manuscript,” *Zentralasiatische Studien des Seminars für Sprach- und Kulturwissenschaft Zentralasiens der Universität Bonn 6*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden.

梅棹忠夫（1956）『モゴール族探検記』岩波書店

梅棹忠夫（1990）『梅棹忠夫著作集 第 4 巻 中洋の国ぐに』中央公論社

（斎藤純男）